

# 「多様な端末と大規模学習データが拓く 新たな学習支援環境」

特集号の発刊にあたって

笠井 俊信

(岡山大学大学院教育学研究科, 学会誌編集委員会幹事)

## 1. はじめに

近年の情報処理技術の進歩により、情報端末はますます小型で扱いが容易になり、タブレットやスマートフォンにとどまらず、ウェアラブル端末の普及も間近に迫っている。一方、これらの情報端末を含む情報機器から発信される利用者の膨大な行動履歴情報は、ビッグデータとして情報処理の新たな価値を産み出しつつあり、その可能性はまだまだ十分に開拓しつくされたとはいえないと考えられる。当然、教育システム技術にも、これらの情報端末やビッグデータの技術動向は、影響を及ぼしており、新たな情報端末の教育応用や、従来よりも格段に詳細な学習行動履歴情報を活用したラーニングアナリティクスと呼ばれる学習データ分析技術の研究開発が盛んになってきている。以上のような状況を踏まえ、本学会誌では、「多様な端末と大規模学習データが拓く新たな学習支援環境」に関する特集号を企画した。本特集号では、「多様な端末」「大規模学習データ」のいずれかにかかわる学習支援環境の研究を広く対象とした。

## 2. 論文の投稿数と判定結果

2015年6月12日のエントリ締め切り、2015年6月19日の論文投稿締め切りを経て、最終的に20編(原著論文14編, 実践論文1編, ショートノート2編, 実践速報3編)の投稿があった。査読においては採録の可否の判断とともに、特集号のテーマである「多様な端末と大規模学習データが拓く新たな学習支援環境」に関する成果が盛り込まれているか否かについても厳正に審査した(採録可能な水準にあるが特集号の

趣旨に一致しない論文は一般号の掲載とした)。最終的に本特集号への採録は7編(原著論文2編, ショートノート3編, 実践速報2編)であり、一般号への採録は2編(原著論文1編, 実践速報1編)であった。採録された論文には、タブレットや携帯端末を活用した学習環境や、さまざまなデバイス、方法によって取得された学習(学修)データを活用した学習支援環境についての取り組みが含まれており、本特集号の企画意図に沿ったものとなった。

本特集号のテーマである「多様な端末」や「大規模学習データ」の活用方法については、まだまだ明らかにされていない部分も多く、実践論文としての採録がない結果となった。本特集号で採録された研究も含め、これまで得られた「多様な端末」や「大規模学習データ」の活用方法についての知見を活かした教育実践が、今後広く展開されていくことを期待したい。

## 3. 特集論文研究会

今回で7回目となる研究会委員会と連携した特集論文研究会を、2015年3月21日に香川大学幸町キャンパスにおいて開催した。特集論文研究会は、著者が希望した場合に通常の発表よりも質疑応答の時間を長くするとともに、あらかじめ研究会委員と編集委員が原稿を読みコメントを提供することで、特集号へ投稿する際の論文執筆の参考にしてもらおうという主旨で行っているものである。本年度は、全17件の発表のうち、16件の希望に対して、コメントが提供されるとともに活発な議論が展開された。

特集論文研究会の発表を経て本特集号に投稿された論文は12編(原著論文9編, 実践論文1編, 実践速